

令和5年度土佐フードビジネスクリエイター人材創出事業 外部評価結果報告書

外部評価委員会

日 時: 令和5年 12 月5日(火)13:30~16:30

場 所: 高知大学農林海洋科学部1号館2階 小会議室1

評価対象: 土佐 FBCⅢの活動総括(平成 30~令和4年度)及び土佐 FBCⅣ(令和5年度)
の実施状況について

評価方法: 自己評価書に基づき、外部評価委員会にて面接評価

評価委員: 菅原 卓也委員長(愛媛大学大学院農学研究科教授)

栗山 典久委員(公益財団法人高知県産業振興センター理事長)

高橋 達巳委員(有限会社高橋豆富代表取締役社長)

森 久世司委員(一般財団法人四国産業・技術振興センター産業振興部担当部長)

1. 外部評価の趣旨

「土佐フードビジネスクリエイター人材創出事業(以下、「土佐 FBC」という。)」は、これまでの外部評価の指摘事項を踏まえ、改善を重ねてきた。土佐 FBCⅢ実施中における前回の平成 30 年度外部評価では、地域に貢献している事業として評価を受け、さらにイノベーションを創出できるようなプログラムについて課題の指摘があり、食品産業の研究開発を担い、食品産業を成長に導く産業人材の育成を目指す S コースを新設し実施してきた。この土佐 FBCⅢが掲げるミッションステートメントが達成できているかどうかについて外部評価を実施する。

また、これまでの外部評価をもとに令和5年度から新たに開始した土佐 FBCⅣの実施状況も含めて評価を実施する。

これらの評価を通じて、今後の土佐 FBC のさらなる発展と強化を目指していくものとする。

2. 外部評価委員会概要

土佐 FBCⅣ企画運営室が作成した自己評価書、添付資料、パンフレットを事前に委員の方へ送付し、予めご評価いただいたうえで、委員会当日、富特任教授、松田特任講師によるプレゼンテーションにより、土佐 FBCⅢ総括と土佐 FBCⅣの実施状況について説明が行われた。各評価項目について、委員と FBC 教員の間で質疑応答が行われ、最後に委員それぞれの観点より講評いただいた。

3. 評価委員からのコメント

主な意見は以下のとおり。

土佐 FBCⅢの活動総括、土佐 FBCⅣの実施状況について

<評価できる点>

- 毎年、受講生の意見を聞きながら授業時間数の削減などカリキュラムを改善しているのは良い取り組みである。授業の重複は受講生のモチベーションの維持が難しくなるので、その点をしっかり改善している。

- 受講生が授業を繰り返し視聴でき、理解を深めるしくみができているのは評価できる。
- 修了生の縦のつながりが強固で支援しあっている。修了生にいかに関心を持って活動してもらおうかが、今後の FBC の展開の重要なポイントになる。
- コロナ禍でありながら自宅でできる実験キットを自前開発し工夫している点は高く評価できる。
- 機能性表示食品届出への支援が多く、FBCを受講する人は機能性表示食品に関心及びモチベーションが高いと言える。

<今後の課題点>

- 海外展開を考えている企業が多いのが重要なポイントとなる。グローバル化を進めるのであれば、海外から講師を招く、高知県産業振興センターの現地サポートデスクや JICA、JETRO を活用するのもよい。⇒令和6年度(第 17 期)のカリキュラムに反映予定
- 授業時間数がだんだん減っている中で、受講生は前年度と比較できないので、満足度や理解度を把握できているかが心配になる。
- 受講生が理解を深めてくれることが重要。サポート体制、理解を深めてもらうしくみができていればよい。⇒令和6年度(第 17 期)の実施体制に反映予定
- オンライン化になり横のつながり、縦のつながりをどう維持するのが課題。修了生をどうつなぎ留めていくか、受講生を取り込み動かすことが新しい受講生の発掘につながる。
- これから起業する人、起業マインドのある人へのアントレプレナーシップ的な授業をもう少し充実した方が、受講生の要望に応えられるのではないかと。⇒令和6年度(第 17 期)のカリキュラムに反映予定
- オンライン化であっても実験実習をしっかり行い、FBC の中での特徴、他との差別化ができるのか。⇒令和6年度(第 17 期)のカリキュラムに反映予定
- 自宅での実験には限界があり、導入の初期段階はキットを使い、次のステップアップとして対面で実験するなど、段階ごとに分けると受講生が分かりやすいのではないかと。⇒令和6年度(第 17 期)のカリキュラムに反映予定
- 修了生の自発的な活動を促進するしくみがマルシェ以外にあるとよい。
- 食に関連した新産業創出の取り組みを土佐 FBC の中で実施できるとよい。
- 土佐 FBC 倶楽部での交流は事情で参加できない場合がある。個人情報の問題はあるが、修了生が 700 名を超えているので、希望者だけでも修了生が直接連絡できるしくみがあればよいと思う。特にスタートアップで企業を探す場合に修了生を知るしくみが必要。
- 海外研修制度が確立して、修了生企業の海外展開サポートが深まるとよい。
- 寄附講座、協賛金、大学の持ち出しなど財政面の問題をどう解決していくのが課題。

4. 講評

- 受講生同士のつながり、修了生を含めたつながりが FBC の宝なので、オンライン化でもそれがうまくまわるとよいと感じた。

- 授業後にリアルな質問時間を設けているのは、受講生が理解を深めるうえで良い取り組みになっている。教育プログラムがよく精査され、無駄のない形で実施されている。
- 新産業創出の取り組みを FBC の中で実施できるとよいと思う。ただマンパワー・経済的な問題があると思うので、より効果的に可能な範囲で優秀な人材育成に取り組んでいただきたい。
- オンライン化では FBC の特徴が見いだせなくなるのではないかと感じていたが、FBCIVで実験実習に特化したコースを作るとのことなので、他との差別化を含めて FBC の特徴を続けてもらいたい。
- 高知県寄附講座であることから、今後も支援を受けるために、県内事業者にとっての直接効果をあげる取り組みを行っていただきたい。
- 海外展開、新しい製品開発を外部機関と連携し進めてもらいたい。
- FBC がブランドになり、修了生の企業と連携することもある。ただ、受講生が修了生のことを知る機会がないので、修了生と直接連絡できるしくみがあればよいと思う。
- ブラッシュアップしながら 16 年続いたのはある意味奇跡である。
- アントレプレナーシップ、リカレントに十分貢献している。かつ地域の食産業の発展に大きく貢献しており、その点は評価されるべきであり、発展的に継続する方向への強い動機づけになる。